

令和6年度 第1回 北浜東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年4月25日（木）13時57分から16時13分まで
- 2 開催場所 北浜東小学校 特別室
- 3 出席委員 鈴木 博、倉橋 芳久、本間 規子、生熊 義憲、市川 寛奈、神谷 智里、横田 めぐみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 鈴木 雄介（北浜南部協働センター）
- 6 学 校 花井 清孝（校長）、佐野 教代（教頭）、菅沼 秀明（CS担当教員）、入手 佑香（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 入手 佑香（CSディレクター）
- 9 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、倉橋委員から鈴木委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された鈴木委員から、倉橋委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木会長が、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）学校運営に関する基本的な方針の確認について
- （2）いじめ防止等のための基本方針の確認について
- （3）夢育やらまいか事業に対する意見書について
- （4）令和6年度の学校運営協議会の自己目標

12 会議記録

司会の菅沼から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営に関する基本的な方針の確認について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 学校教育目標である「目標に向かって 自ら学び続ける子」と「徳」の部分の目指す子供像「自他を認め、大切に作る子」とは協働的な学びから子供同士や外部講師など、人との関わりの中で学んでいくという意味なのか。

（市川委員）

- ・ 御認識の通り。例えば、林間学校では、仲間と共に力を合わせるために自分のめあてを立て、めあてに向かって活動することを通して、友達の新しい一面を発見したり、友情を深めたりしていく。このように、あらゆる場面を通して

その子なりの目標やめあてを立てることができればよいと考えている。(校長)

- ・ 学校に来る良さは友達や仲間がいるところが大きい。大きな目標を達成した時、仲間が協力・応援してくれることやお互いが相手を尊重し合い、思いやりの心を持ってよりよい人間関係を築くことがよい結果に繋がると思う。

(教頭)

- ・ 東小は素直で優しい子供たちの良さがある。一方で、自分を表現することが苦手のように感じる。4月の始業式では、子供たちが全校児童の前でめあての発表をしている様子を学校便りで見ることができ、実際に自己表現力を付けるための具体的な取り組みがされていることが嬉しかった。自分の思いや表現する子供たちに育ってほしい。(倉橋委員)
- ・ 東小の小規模校の中で生活していると、自己表現をする必要な時がなく、通ってしまうのではないか。自らの経験からも自分を表現していくことに苦労した思いがあるが、小学校を卒業すると北浜北小学校の子供たちと一緒にいる。その時にどのように自分を表現していくのかを小学校の間に学んでいけるとよい。(生熊委員)
- ・ 普段の生活の中でも自己表現しない子供が多いように感じる。朝の交差点での見守りでは「おはよう」と声を掛けても挨拶が返ってこない。縦割り活動の中にコミュニケーション能力を付ける活動を取り入れることも大切だと思う。(生熊委員)

## (2) いじめ防止等のための基本方針の確認について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき、いじめ防止基本方針について説明があり、以下の発言があった。

- ・ いじめ対策委員会は定期的を実施し、緊急性の高い場合においては直ちに行うとあるが構成メンバーは昨年度と同じなのか。(鈴木委員)
- ・ 参画する教職員は、校長、教頭、教務主任、いじめ対策コーディネーター、生徒指導主任、発達支援コーディネーター、学年主任、養護教諭、学級担任を原則とする。しかし、緊急性が高い場合には、該当する職員を参集して迅速に対応している。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが参加する場合もある。(校長)
- ・ 昨年度は、重大事態に陥るいじめ問題はなく、いじめ被害の子供のケアにスクールカウンセラーに入ってもらったケースもなかったが、必要に応じて実施していく。(校長)
- ・ 最悪の場合はいじめを苦に自ら命を絶ってしまうケースもある。命に関わるいじめ問題への対応は最重要課題として認識しなくてはならない。(倉橋委員)
- ・ 教職員は多くの業務を抱えている中で、子供たちの些細な変化に気付くのは厳しい状況だと思う。いじめを早期に発見するため、児童に対する定期的なアンケートや相談を行うことができる体制を整備することが必要となる。

(倉橋委員)

- ・ いじめに関する重大事態については該当する案件はなしとのことだったが、SNSに関するいじめについての案件はあるのか。(本間委員)

- ・ 昨年度、認知した件数では該当がなかったが、浜松市の中ではSNSを介したトラブルが増加してきているという情報も聞いている。(校長)
- ・ 大人が気付きにくい「ネットいじめ」が増えてきている。子供たちは自分守る気持ちが、自分とは異なる相手の“個性”を攻撃して、仲間はずれなどが起こる原因になっていると思う。多様性を認め文化や価値観を子供たちに伝えることがとても大切になる。(本間委員)
- ・ 子供にスマホを持たせるタイミングはいつ頃なのか。(倉橋委員)
- ・ 家族との連絡手段の確保やスマホのGPS機能を使い、緊急時の防犯対策など安心材料に使用している。(神谷委員)
- ・ SNSは、日々のコミュニケーションが気軽に取れるなどのメリットもある一方でいじめの温床になるのでとても悩ましい。(神谷委員)
- ・ 「子供にいつからスマホを持たせようか？」と悩む保護者の方も多いと思う。PTAなどで話し合う機会があるよ。(倉橋委員)
- ・ 中学校では、SNSでいじめの対象の子の発言を無視したり、強制的に退会させられる話を耳にすることがある。小学校では、オンラインゲームの対戦の中で、戦いに負けた友だちが、腹を立て、顔が見えない分、強い言葉を言って暴言を吐いてしまうことでいじめに発展する要因になっていると聞いたことがある。実際に問題に直面した時にはどうように対応すればいいのか。(横田委員)
- ・ 以前にネットに関する使い方の講演会があったが、今年度は計画しているのか。(倉橋委員)
- ・ 今のところは計画していないが、健全育成会には学校運営協議会の意見を伝え参考にしていきたい。(校長)
- ・ デジタルタトゥーとして残る、SNS上での誹謗中傷が心の健康にまで影響を与える。近隣では、さまざまなネットトラブルが起きているので、情報モラル教育を重要視していかなければならない。(教頭)

### (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、地域ふれあい活動や学校運営に資する活動を行うための経費として有効活用する説明があった。委員から、以下の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

- ・ 地域ふれあい活動は、以前は子供たちが地域に出向き、自治会単位で実施していたが、コロナ禍後は学校で実施することになった。しめ縄の材料である藁が手に入りにくいいため、藁の確保が難しい。学校で藁を用意してもらえることは有り難い。(鈴木委員)

### (4) 令和6年度の学校運営協議会の自己目標

菅沼から、学校運営協議会自己評価について説明があった。また、今年度の学校運営協議会として、どのようなことを目標にするのがよいかを付箋に記入してもらい委員から以下の発言があった。

- ・ 自己表現力とコミュニケーション能力を育てる。(倉橋委員)
- ・ いじめの問題について、学校でのいじめ防止対策に限らず、家庭でも家族のコミュニケーションづくりを大切にして「この頃、変わったことはない？」などと

聞くことが必要だと思う。(倉橋委員)

- ・ スマホマナーの学習を親子で行うことが必要だと思う。(倉橋委員)
- ・ 地域の方や保護者とのふれあい活動を通じて自己表現できる子供になってほしい。(神谷委員)
- ・ いじめ問題について、当事者だけではなく、第三者目線で見ることができる保護者や地域の方にも一緒に考えてもらいたい。(神谷委員)
- ・ 地域ふれあい活動を通じて児童同士や地域の方とのコミュニケーションづくりをする。(生熊委員)
- ・ 地域に開かれた学校運営づくりを推進しているが、学校運営の状況など地域住民等には分かりづらいように思う。子供たちを通じて地域に周知してくれると有難い。(生熊委員)
- ・ コミュニケーションの根幹となる挨拶を地域みんなで取り組みをしていく。普段から家庭でも親子の会話を大事にする。(本間委員)。
- ・ インターネットの使い方などに関する授業があるとよい。(本間委員)
- ・ 自信を持って思いや考えを言葉で適切に表現してよいと思える安心感をベースに自分を認めるとともに他人の思いを大切にする。(市川委員)
- ・ 自分の子供だけでなく、友達や東小の子供のためにできる活動をしていく。  
(市川委員)
- ・ いじめが起こった際には、教員は早期発見や対応などを行うことが極めて重要なことだが、心理や福祉の専門家など第三者を交えた、いじめ対策委員会が必要な時があると思う。(鈴木委員)
- ・ 挨拶について、登下校の見守りでは、子供たちが応えてくれるまで、自然と挨拶ができるような環境を作っていくことが大切である。(鈴木委員)
- ・ 保護者を対象に地域ふれあい活動を自由参観日として参加を呼び掛ける。講師の人数が減ってきているので、保護者の方にも講師となって協力してもらおう活動に繋げていきたい。(鈴木委員)
- ・ 自分の考えを言葉で人に伝え、自己表現ができる子供になってほしい。  
(横田委員)
- ・ 地域ふれあい活動で、石臼体験に参加した経験があり、参加した子供たちはとても楽しそうで好感が持てる活動だった。今では、昔遊び体験など貴重な経験になるのでとても大事なことだと思う。(横田委員)
- ・ 挨拶について、高学年の子供たちが積極的に大きな声で挨拶ができるようになれば下級生も自然と声が出せるようになると思う。元気に挨拶できると周りだけでなく自分自身も気分がよくなる。(横田委員)
- ・ その他報告事項等  
司会から、次回会議は、5月21日(火)午後2時から特別室で開催する旨の報告があった。